

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-76309

(43)公開日 平成5年(1993)10月19日

(51)Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 4 B 19/16

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平4-25427

(22)出願日 平成4年(1992)3月25日

(71)出願人 000006828

吉田工業株式会社

東京都千代田区神田和泉町1番地

(71)出願人 592088161

三京アムコ株式会社

愛知県刈谷市築地町銭成21番地

(72)考案者 浜谷 勉

富山県滑川市加島町2348-1

(72)考案者 名屋 正浩

愛知県刈谷市築地町銭成21番地 三京アムコ株式会社内

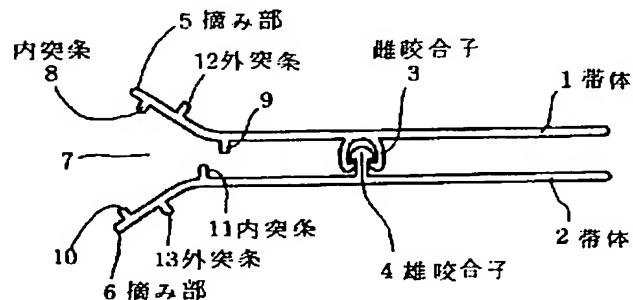
(74)代理人 弁理士 宮田 友信 (外1名)

(54)【考案の名称】 レール状ファスナー

(57)【要約】

【目的】 袋口縁に取り付けて開閉機能をなすレール状ファスナーを指先で挟んで開放するが、その開放する際に、指先の広い範囲で掴むことができるようになし、開放操作の容易化を図ることにある。

【構成】 一对の対面する帯体1、2の互いに対向する面にレール状の雌雄咬合子3、4を設け、両帯体の相対向する一側縁部を屈折して開いて摘み部5、6に形成してあるレール状ファスナーにおいて、前記摘み部5、6の内面側の側端部と、雌雄咬合子3、4側とにそれぞれ内突条8、9、10、11を長手方向に設けてあると共に、摘み部の外面における前記内突条間の中間部に対応して外突条12、13を長手方向に設けていることを特徴とする。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 一対の対面する帯体（１，２）の互いに対向する面に設けたレール状の雌雄咬合子（３，４）と、該雌雄咬合子（３，４）から延出した摘み部（５，６）を形成してなるレール状ファスナーにおいて、摘み部（５，６）の内面の側端部と、雌雄咬合子（３，４）側とにそれぞれ内突条（８，９，１０，１１）を長手方向に設けると共に、摘み部（５，６）の外面における前記両内突条間の中間部に対応して同じく外突条（１２，１３）を長手方向に設けていることを特徴とするレール状ファスナー。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案によるレール状ファスナーを示す側面図である。

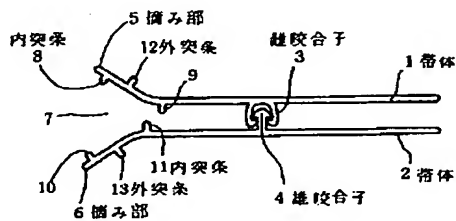
【図 2】 同じく類例を示す側面図である。

【図 3】 本考案によるレール状ファスナーを設けた袋口を開放する時の状態を示す斜視図である。

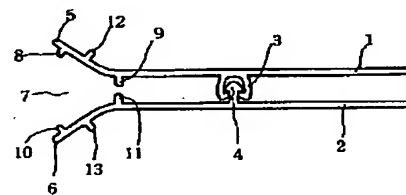
【符号の説明】

- 1 帯体
- 2 帯体
- 3 雌咬合子
- 4 雄咬合子
- 5 摘み部
- 6 摘み部
- 8 内突条
- 9 内突条
- 10 内突条
- 11 内突条
- 12 外突条
- 13 外突条

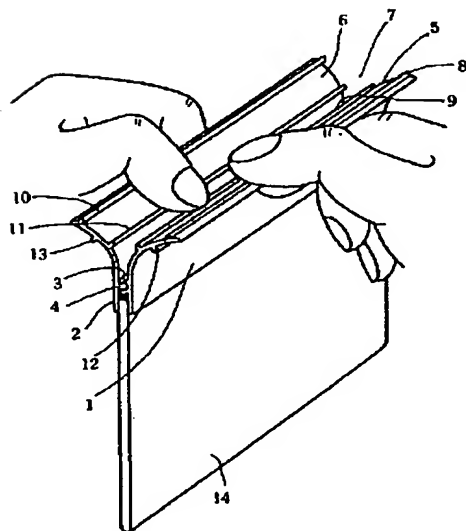
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、包装袋などの袋類の口縁に取り付け、その口の閉鎖状態を保持するレール状ファスナーに関する。

【0002】**【従来の技術】**

この種のファスナーとして、実開平3-19313号公報によって開示しており、対面する一对の帯体の内面に雌雄の咬合子を設け、その雌雄咬合子の噛み合いによって閉鎖され、これを開く時には、両帯体の相対向する一側縁部に形成してある摘み部を持って開くもので、その両摘み部を摘み易いように、外側に屈折してあると共に、摘み部の側端部に膨大部を設けたものである。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

以上の従来のものであると、摘み易いように形成してあるが、帯体は合成樹脂のフィルムで薄く滑り易く、しかも弾力があるために、膨大部があっても双方の摘み部を指先で強く挟み持って開く必要がある。そのため1、2回の開閉を行うには殆ど問題はないが、この種のファスナーを設けている袋の使用用途によっては、連続して繰り返し開閉する場合があります、そんな時には作業中に指先に痛みが発生して、遂にはしびれだすという報告もあり、こうした用途に対して改良が望まれた。

【0004】

本考案は摘み部に指先が広く当たるように工夫して、前記問題を解決しようとするものである。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本考案による解決手段は、一对の対面する帯体の互いに対向する面に設けたレール状の雌雄咬合子と、該雌雄咬合子から延出した摘み部を形成してなるレール状ファスナーにおいて、摘み部の内面の側端部と、雌雄咬合子側とにそれぞれ内

突条を長手方向に設けると共に、摘み部の外面における前記両内突条間の中間部に対応して同じく外突条を長手方向に設けていることを特徴とする。

【0006】

【作用】

摘み部を指先に挟んで持った際に、摘み部の内面側に差し込んだ指の腹が両突条間に嵌まりこむため、指先の広い範囲で滑ることなく確実に摘むことができ、袋の開閉を繰り返して行っても指先に痛みを覚えることがなくなる。

【0007】

【実施例】

本考案を具体的に説明すると、図1に示しているように、合成樹脂テープよりなる一对の帯体1、2が平行に相対向し、両帯体1、2の相対向面のうち、一方に断面C字状の雌咬合子3を長手方向に沿って突設し、他方に断面矢印状をなす雄咬合子4を同じく長手方向に沿って突設してあり、その雌雄両咬合子3、4が互いに弾力的に係脱して、両帯体1、2が一体的に連結されると共に分離できるものである。

【0008】

上記両帯体1、2の相対向する一側縁部に摘み部5、6を互いに離反する方向に屈折して形成してあり、その両摘み部5、6間に指を差し込むことができる空間部7を設けたもので、また図1の例は、一方の摘み部5が他方の摘み部6より短く形成してあり、図2の例は双方同様の長さに形成してある。

【0009】

そこで、上記両摘み部5、6の各内面（対向面）の端部と、屈折部乃至その近傍とにそれぞれ内突条8、9、10、11を長手方向に沿って突設し、更に両摘み部5、6の各外面に、両内突条8、9、10、11間の中間部に対応する部分にもそれぞれ外突条12、13を長手方向に沿って突設したものである。尚、屈折部側に設けた対向する両内突条9、11は、図1に示す如く食い違い状に突設することが好ましい。

【0010】

上記レール状ファスナーは図3のように袋14の口部に沿って接着などの手段

で取り付けられるもので、帯体 1, 2 の雌雄咬合子 3, 4 の部分を外面より押し潰すように押し付けることによって、雌雄咬合子 3, 4 が互いに噛合して袋口が閉鎖されるものであり、袋口を開く時には、両摘み部 5, 6 間の空間部 7 内に両親指を差し込み、双方の人差し指を外面に当てて摘み部 5, 6 を挟み持ち、そのまま左右へ開くことによって開放できるものである。

【0011】

【考案の効果】

本考案によるレール状ファスナーによれば、両摘み部の内面に一對の内突条を設け、外面に外突条を設けたもので、これを開く際には、摘み部の内面に差し込んだ指の腹が両内突条間に嵌まり、自ずと指で掴む面積が広くなり、しかもその各内突条及び外突条による滑り止め効果とも相俟って、左右へ開く力が入れ易くなることから、指先に強い力を入れることなく簡単に開放することができ、また複数の袋口を連続して開放する作業を行っても、即座に指先に痛みを感じることがなく、その作業を持続して遂行することができる。